

## 「とある裏切りの幻想殺し」

イラスト：鼎ありす

初版：コミックマーケット84

遂に一〇冊目です。禁書本の一区切りで何を書こうかと考えましたが、やはり「とある妖精の音楽隊」から出番のなかったインデックスを出す事、そして琴も出して劇場版のようなお祭り感を目指しました。

ただここで迷ったのがの扱いでした。奴がいるとすべてを幻想殺しで解決してしまいそうで、いつも通り過ぎて面白くない。その頃ちょうど超電磁砲でやってたのが、白井達が食蜂に操作されてしまう話で——上条を敵側に回せば面白いんじゃないか!? という突飛な発想でできた話になります。

オリキヤは「シェハラザード」。元々グレムリンの一人として出そうかと思っただんですが、あの人達仲間に容赦ないんで関係ない事におきました。あとインデックスとの対比として人間魔導書にしたり。で、上条を敵に回すためには洗脳とかしないとイケないんですが、実は上条を敵に回すと決める前にシェハラザードの設定がほとんどできていたので、その手法になり苦慮しました。便利過ぎる一方、禁書目録は取り扱いに困ります。一方通行も。結局作品内の手法を取りましたが、閉鎖的な魔術師だからありえない事もないかなーという事で……。書き上がった今としては、当初想定通りの事はしっかり書けたと思います。あとは皆様の評価待ちでしょうか。良い事を祈ります。

